

第11回 ('16年1月13日：Keywords・・・シュミットの直交化、双対空間)

まとめ.

11-1. シュミットの直交化・・・計量ベクトル空間 V があり、一次独立なベクトル $\{v_1, \dots, v_n\}$ があるときに、それらのベクトルを使って $\langle v_1, \dots, v_n \rangle = \langle e_1, \dots, e_n \rangle$ を満たすように正規直交ベクトル $\{e_1, \dots, e_n\}$ を得る方法.

11-2. $s(\mathbb{R})$ の部分空間・・・ $s(\mathbb{R})_0 = \{(a_n) \in s(\mathbb{R}) \mid \text{十分大きい } n \text{ に対して } a_n = 0\}$

11-3. 双対空間・・・ V, W をベクトル空間として、 $\text{Hom}(V, W)$ はベクトル空間である. $W = \mathbb{C}$ のとき、 $V^* = \text{Hom}(V, \mathbb{C})$ を V の双対空間といい、 $\mathbb{C}$ 上のベクトル空間という. $v_1, v_2, \dots, v_n$ を V の基底とする. このとき、 $f_j(v_i) = \delta_{ij}$ となるようなベクトル $f_i \in V^*$ は V^* 上の基底となり、 $\{f_1, \dots, f_n\}$ を V^* の双対基底という.

数ベクトル空間の双対ベクトルは、 $f(x_1, x_2, \dots, x_n) = a_1 x_1 + \dots + a_n x_n$ として表せるので、ある、横ベクトル $(a_1, a_2, \dots, a_n)$ として同一視することができる.

今日の課題.

1. シュミットの直交化ができること. 2. 双対空間. 双対基底を理解すること.

A-11-1. [シュミットの直交化]

シュミットの直交化を使って次のベクトルを正規直交化せよ. (1),(2),(3),(5),(6) は実標準内積であり、(4) は複素標準内積とする.

$$(1) \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

$$(2) \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

$$(3) \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$(4) \begin{pmatrix} 1 \\ i \\ i \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} i \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$(5) \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$(6) \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

A-11-2. [双対空間]

次のベクトル空間 V の双対ベクトル空間 V^* のついて、次のベクトル $f_i \in V^*$ は一次独立であるか調べよ.

$$(1) V = \mathbb{C}^2, f_1\left(\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}\right) = 3, f_1\left(\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}\right) = -1, f_2\left(\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}\right) = 0, f_2\left(\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}\right) = 1$$

$$(2) V = \mathbb{C}^2, f_1\left(\begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}\right) = a + b, f_2\left(\begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}\right) = a - b$$

$$(3) V = \mathbb{C}^2, f_1\left(\begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}\right) = a + b, f_2\left(\begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}\right) = 2a + 2b$$

$$(4) V = \mathbb{C}[x]_2, f_1(1+x) = 2, f_1(1+x+x^2) = 0, f_1(x) = -1, f_2(1+x) = 2, f_2(1+x+x^2) = 0, f_2(x) = -1, f_3(1+x) = 2, f_3(1+x+x^2) = 0, f_3(x) = -1$$

A-11-3. [一次独立性]

次のベクトルは一次独立か？

$$(1) f_i \in (\mathbb{C}[x]_2)^* f_1(F(x)) = F(0), f_2(F(x)) = F(1), f_3(F(x)) = F(-1)$$

$$(2) f_i \in (\mathbb{C}[x]_2)^* f_1(F(x)) = F'(0), f_2(F(x)) = F'(1), f_3(F(x)) = F'(-1)$$

$$(3) w_i \in (\mathbb{C}^3)^*, w_1(a, b, c) = a - b - c, w_2(a, b, c) = b - a - c, w_3(a, b, c) = c - a - b$$

A-11-4. [双対基底]

以下の数ベクトル空間の基底の双対基底を横ベクトルとして表せ.

$$(1) V = \mathbb{C}^3, v_1 = {}^t(1, 1, 2), v_2 = {}^t(0, 0, 1), v_3 = {}^t(1, 0, 1)$$

$$(2) V = \mathbb{C}^3, v_1 = {}^t(1, 0, 1), v_2 = {}^t(0, 1, 2), v_3 = {}^t(1, 1, 1)$$

$$(3) V = \mathbb{C}^3, v_1 = {}^t(0, 1, 0), v_2 = {}^t(0, 0, 1), v_3 = {}^t(1, 0, 0)$$

B-11-1. [双対基底]

上記のように定めた双対基底が基底であることを確かめよ.

B-11-2. [数ベクトル空間上の双対基底]

ベクトル空間 V の基底 $v_1, \dots, v_n$ の双対基底を $w_1, \dots, w_n$ とする. V の基底を $(x_1, \dots, x_n) = (v_1, \dots, v_n)P$ とすると、 $x_1, \dots, x_n$ の双対基底 $y_1, \dots, y_n$ は $y_i(v) = w_i(vP^{-1})$ と表せることを示せ.

B-11-3. [シュミットの直交化]

$\mathbb{R}[x]_2$ 上に -1 から 1 までの積分 $\int_{-1}^1 f(x)g(x)dx$ として内積を入れることで、以下のベクトルを正規直交化せよ.

$$(1) \{1, x, x^2\}$$

$$(2) \{1+x, x+x^2, 1\}$$

B-11-4. [双対空間の部分ベクトル空間]

$W \subset V$ を部分空間とすると、 $\{f \in V^* \mid \text{任意の } v \in W \text{ に対して } f(v) = 0\}$ となる V^* の部分集合は部分ベクトル空間であることを示せ. また、その次元を求めよ.

C-11-1. [シュミットの直交化]

次を $\mathbb{R}^4$ の標準内積をもつ空間のベクトルとする. シュミットの直交化を用いて正規直交基底を与えよ.

$$\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

C-11-2. [双対基底]

次の双対ベクトル $f_i: \mathbb{C}^3 \rightarrow \mathbb{C}$ ($i = 1, 2, 3$) は一次独立であるか、答えよ.

$$\begin{cases} f_1(0, 0, 1) = 1, f_1(1, 2, 1) = 1, f_1(-1, 2, 3) = -1 \\ f_2(0, 1, 0) = 1, f_2(2, 1, 1) = 0, f_2(2, 3, -1) = 1 \\ f_3(1, 0, 0) = -1, f_3(1, 1, 2) = -1, f_3(3, -1, 2) = 0 \end{cases}$$

C-11-3. [行列から定まるある値]

$v_1, \dots, v_n$ をベクトル空間 $V = \mathbb{C}^n$ の基底とし、 $w_1, \dots, w_n$ をその双対基底とする. このとき、正方行列 A に対して、

$$\sum_{i=1}^n w_i(Av_i)$$

の値を A を用いて答えよ.

(Hint: 標準基底において求めておき、値が基底の取り方に依存しないことを証明せよ.)

HP : <http://www.math.tsukuba.ac.jp/~tange/jugyo/15/sen.html>

Blog : (<http://mochans.blogspot.jp/>)

相談、質問などいつでも承ります. アドレスはプリント 1 ページ目上部.